

じゅういちめんかんのりつぞう  
木造十一面観音立像  
しょうかんのりつぞう  
木造聖観音立像

国指定重要文化財  
(彫刻)

婦中町千里 6522  
常楽寺所有

常楽寺は、大正2年(702年)に創建されたといわれるたいへん古い寺です。ここには十一面観音立像と聖観音立像の2体の菩薩が安置されています。ともに1000年以上も前(平安時代初期)に造られ、大人の身長ほどもある堂々とした木造の仏像です。



常楽寺・観音堂



JR高山本線千里駅下車 徒歩20分



木造十一面観音立像



木造聖観音立像

十一面観音立像は、行基の一刀三札の作品と伝えられています。杉の一木造りの立像で、184.5 cmあります。初めは金色に塗られていたらしいのですが、今は杉の木目がはっきりと見え、冠の10個の小さな顔も形だけになっています。両手や左右に垂れる帯状の天衣、それに蓮の花の形の台座などは、後から造って付けられたものです。横から見た形も堂々としており、常楽寺の古さを物語る立派な彫刻です。

聖観音立像は、もとは富山市山田宿坊にあったと伝えられています。仏師春日の作品といわれ、185.8 cmあります。この立像は、梅檀材の一木造りで刻み方に趣もあり、力強く神秘的です。

十一面観音立像よりも早く造られたものといわれていますが、手に持つ蓮の花、台座などは、いずれも後から付けられたものです。